



# 植生マップ

大阪府立刀根山高等学校  
2017年3月作成



- |   |   |   |   |  |  |  |   |  |  |
|---|---|---|---|--|--|--|---|--|--|
| <p><b>裏山</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① アカマツ</li> <li>② カイズカイブキ</li> <li>③ コナラ</li> <li>④ アベマキ</li> <li>⑤ センダン</li> <li>⑥ ハゼノキ</li> <li>⑦ ザイフリボク</li> <li>⑧ ムクノキ</li> <li>⑨ ヤマガキ</li> <li>⑩ ソメイヨシノ</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>⑪ ヤマザクラ</li> <li>⑫ イロハカエデ</li> <li>⑬ トウカエデ</li> <li>⑭ イチョウ</li> <li>⑮ キリ</li> <li>⑯ アラカシ</li> <li>⑰ シラカシ</li> <li>⑱ クスノキ</li> <li>⑲ クロガネモチ</li> <li>⑳ カナメモチ</li> <li>㉑ クロバイ</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>㉒ ソゴ</li> <li>㉓ クサギ</li> <li>㉔ アキグミ</li> <li>㉕ イヌビワ</li> <li>㉖ マルバハギ</li> <li>㉗ ウメ</li> <li>㉘ シャシャンボ</li> <li>㉙ ヒサカキ</li> <li>㉚ ヒイラギ</li> <li>㉛ ナンテン</li> <li>㉜ モチツツジ</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>㉝ テンダイウヤク</li> <li>㉞ ヤツデ</li> <li>㉟ アオキ</li> <li>㊱ ヤブコウジ</li> <li>㊲ サツキ</li> <li>㊳ タツナミソウ</li> <li>㊴ シラン</li> <li>㊵ ツバキ</li> <li>㊶ サルトリイバラ</li> <li>㊷ フジ</li> <li>㊸ ナツフジ</li> <li>㊹ スイカズラ</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>㊺ アケビ</li> <li>㊻ カナリーキツタ</li> <li>㊼ シュンラン</li> <li>㊽ オオジシバリ</li> <li>㊾ タツナミソウ</li> <li>㊿ シラン</li> <li>1 キンミズヒキ</li> <li>2 タンキリマメ</li> <li>3 アキノキリンソウ</li> <li>4 ヤブカンゾウ</li> <li>5 ツワブキ</li> </ul> | <p><b>グラウンド西側緑地</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 ケヤキ</li> <li>2 ヒトツバハギ</li> <li>3 キツネノカミソリ</li> <li>4 ノカンゾウ</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>5 クズ</li> <li>6 ススキ</li> <li>7 チガヤ</li> <li>8 ワラビ</li> <li>9 フユノハナワラビ</li> <li>10 ヒトツバ</li> <li>11 マルバハッカ(アップルミント)</li> <li>12 ニオイスマレ</li> <li>13 サンショウ</li> <li>14 ムラサキシキブ</li> <li>15 ジンチョウゲ</li> </ul> | <p><b>中庭・校舎・グラウンド周辺</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① スギ</li> <li>② ソテツ</li> <li>③ ココスヤシ</li> <li>④ ハクモクレン</li> <li>⑤ ヒラドツツジ</li> <li>⑥ サツキ</li> <li>⑦ サザンカ</li> <li>⑧ マメツゲ</li> <li>⑨ アベリア</li> <li>⑩ ネジバナ</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>⑪ ニガナ</li> <li>⑫ ドクダミ</li> <li>⑬ スミレ</li> <li>⑭ ユキヤナギ</li> <li>⑮ レンギョウ</li> <li>⑯ エノキ</li> <li>⑰ アメリカノウゼンカズラ</li> <li>⑱ オオキバナカタバミ</li> <li>⑲ ピロードモウズイカ</li> <li>⑳ ノアサガオ</li> <li>㉑ ノウゼンカズラ</li> </ul> | <p><b>ビオトープ池</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★ ヒメガマ</li> <li>★ スイレン</li> <li>★ オオシオカラトンボ(オス)</li> <li>★ シオカラトンボ(オス)</li> <li>★ クロスジギンヤンマ(メス)</li> <li>★ チョウトンボ(オス)</li> <li>★ イヌタヌキモ</li> <li>★ フトヒルムシロ</li> <li>★ オオタニシ</li> </ul> |
|---|---|---|---|--|--|--|---|--|--|



# 裏山

校内で「裏山」と呼んでいる林は、大阪大学薬学部の前身であった戦前の薬学専門学校時代から刀根山(千里丘陵の北西端)の尾根部分に残された里山林(雑木林)で、もとはアカマツ林とコナラやアベマキなどの落葉広葉樹林であったと推測されます。現在はアカマツが衰退するとともに常緑樹が増加し、照葉樹林へと遷移が進んでいます。里山林の様相が一番よく残っているのは東南部分(里山ゾーン)で、昔からこの地域にあった植物が多く残っています。体育館北東側は整備されてサクラやイチョウ、トウカエドなどが植えられています。体育館北側にはモウソウチクの竹林があります。その奥にハーブ園があり、裏門まで続く斜面には、アベマキとシラカシを主な樹種とする林があります。

## 裏山で見られる主な植物 \*印は植栽 ※印は豊中市の希少種

高木	針葉樹	アカマツ①、カイスカイブキ②*
	落葉広葉樹	コナラ③、アベマキ④、センダン⑤、ハゼノキ⑥、サイフリボク⑦※、ムクノキ⑧、ヤマガキ⑨、ソメイヨシノ⑩※、ヤマザクラ⑪※、イロハカエド⑫※、トウカエド⑬※、イチョウ⑭※、キリ⑮
	常緑広葉樹	アラカシ⑯、シラカシ⑰、クスノキ⑱、クログネモチ⑲、カナネモチ⑳、クロバイ㉑※、ソゴ⑳㉒
低木	落葉広葉樹	クサギ㉓、アキグミ㉔、イヌビワ㉕、マルバハギ㉖、ウメ㉗*
	常緑広葉樹	シャシャンボ㉘、ヒサカキ㉙、ヒイラギ㉚、ナンテン㉛、モチツツジ㉜、テンダイウヤク㉝、ヤツデ㉞、アオキ㉟、ヤブコウジ㊱、サツキ㊲※、サザンカ㊳※、ツバキ㊴*
ツル性		サルトリイバラ㊵、フジ㊶、ナツフジ㊷、スイカズラ㊸、アケビ㊹、ミツバアケビ、カナリーキツタ㊺*
草本/シダ類		シュンラン㊻※、オオジシバリ㊼、タツナミソウ㊽※、シラン㊾※、キンミズヒキ㊿※、タンキリマメ①、アキノキリンソウ②※、ヤブカンソウ③※、ツツブキ④※、クズ⑤、ススキ⑥、チガヤ⑦、ワラビ⑧、フコノハナワラビ⑨※、ヒトツバ⑩*



**1 アカマツ**  
樹皮が赤茶色。マツ枯れで少なくなったが、里山ゾーンには40本ほど残っている。1980年代前半までは根元にマツタケが生えていた。



**3 コナラ**  
秋に細長いドングリを大量に落とし、葉は黄色から赤に紅葉。ナラ枯れの被害を最も受けやすい。シイタケ栽培の原木や新炭材として利用。



**4 アベマキ**  
秋に大きな丸いドングリを落とし、葉は黄色に紅葉。葉の裏に細かい毛が生え、幹のコルク質が発達する点でクスギと区別。かつてコルクを採取した。



**5 センダン**  
6月頃甘い香りの花を咲かせ、夏から冬にかけて丸い実をつける。実は緑から次第に白くなる。



**6 ハゼノキ**  
秋に鮮やかな赤に紅葉。実からは和ロウソクの原料の蠟が採取できる。かぶれる人もいるので注意。



**7 ザイフリボク**  
4月に白い美しい花を咲かせる。別名シデザクラ。豊中市の希少種。



**9 ヤマガキ**  
実は小さく渋いが糖度は高く、干柿にして食べることができる。



**16 アラカシ**  
晩秋に小さな丸いドングリを落とす。この若葉を食草にしてムラサキシジミ(蝶)が生育している。



**21 クロバイ**  
5月に淡い香りの白い小さな花をたくさんつける。豊中市の希少種。



**23 クサギ**  
独特の臭気がある。夏に花を咲かせ、アゲハチョウなどが吸蜜に来る。実は青い色素を含み草木染めに利用できる。



**24 アキグミ**  
葉の裏が白く、初夏に甘い香りの花を咲かせ、秋に実が熟す。少し渋いが甘酸っぱくて食べられる。



**25 イヌビワ**  
左は雄花で右は雌花。イチジクの仲間。雌花は夏に甘く熟し食べられる。秋に黄色く紅葉。



**26 マルバハギ**  
秋の七草の一つ。花期は10月中旬~11月上旬



**29 ヒサカキ**  
早春に小さな花を多くつけ、ガス臭を漂わせる。



**32 モチツツジ**  
この地域に自生するツツジで、4月から5月にかけて甘い香りの花を咲かせる。花の周囲に粘液があり、ネチャネチャする。



**33 テンダイウヤク**  
根を薬に利用し、薬草園でよく植えられている。薬学専門学校・阪大薬学部に由来する植物と考えられる。



**42 ナツフジ(ドウフジ)**  
7月~8月に白い花をつけるマメ科のフジの仲間。



**43 スイカズラ(キンギンカ)**  
グラウンドのフェンスや隣地との境界に生育。6月に甘い香りの白い(後に黄色)花をつける。



**46 シュンラン(春蘭)**  
里山林に自生するラン科の一種で多年草。豊中市の希少種。



**47 オオジシバリ**  
体育館北側斜面などに群落があり、5月初旬にタンポポに似た花を一面に咲かせる多年草。



**48 タツナミソウ**  
5月に開花するシソ科の多年草。豊中市ではこの場所にしかない希少種。



**49 シラン**  
日本に自生するラン科の多年草だが、植栽されたもの。PTAハーブ園周辺に群落がある。



**52 アキノキリンソウ**  
日当たりの良い林縁に生育し、10月下旬~11月初旬に黄色の美しい花をつける多年草。豊中市の希少種で、増殖に取り組んでいる。



**53 ヤブカンソウ**  
初夏にオレンジ色の大きな花を咲かすユリ科の多年草。新芽は昔から食用にされてきた。豊中市では希少種。

## キノコ類

裏山を中心に、グラウンド西側緑地も含め130種近く(2016年度)のキノコが見つかっています。その中には、稀少な種類もあります。



**シロハツモドキ**  
カシ類の林に生育し、裏山でよく見られる大型のキノコ(毒)



**ハツタケ**  
アカマツ林の代表的なキノコ。昔から食用として名高い。大阪府の準絶滅危惧種。



**マンネンタケ**  
広葉樹の枯木やその周辺地上に発生するサルノコシカケの仲間。古くから漢方薬として利用され、「靈芝」の名で知られる。



**イボテングタケ**  
主に針葉樹林に発生する名の知れた毒キノコ。うま味を持つ毒成分「イボテン酸」を含有。



**クモタケ**  
地中に棲息するキノコウエタゲモ(府の準絶滅危惧種)に寄生して発生する「冬虫夏草」の一種

## 昆虫類

カブトムシやヒラタクワガタ・コクワガタ・シロテンハナムグリ・カナブンなどの甲虫、ゴマダラチョウやミズイロオナガシジミ・ムラサキシジミ・ルリタテハなどの蝶、ハチなど多様な昆虫類、クモ類が生息しています。



**ヒラタクワガタ**  
大型のクワガタムシで、コナラやアベマキの朽木で繁殖している。



**ルリタテハ**  
夏の終わりから秋に見られる蝶で、幼虫はサルトリイバラを食草にしている。

## グラウンド西側緑地

グラウンド西側の斜面と住宅地間の平地はもと大阪大学薬学部の薬草園があった場所で、ケヤキ①が植えられ、ヒトツバハギ②やキツネノカミソリ③、ノカンゾウ④など薬草園由来と思われる珍しい植物が現在も生育しています。斜面はグラウンド造成時にクロマツ⑤が多数植栽されましたが、マツ枯れにより多くが枯れ、斜面上部にはクスノキが大きく成長しています。

このエリアは毎年草刈りがされてきており、薬草園由来のものも含め、シロバナタンポポ⑥やカンサイタンポポ⑦、ツルボ⑧、ノビル⑨、スギナ⑩、マルバハッカ(アップルミント)⑪、ニオイスマレ⑫などの植物群落が見られます。また、平成22年には「黒田緑化財団」の寄贈により、ミカンやサンショウ⑬などの柑橘類やハギ、ツツジ、ムラサキシキブ⑭、ジンチョウゲ⑮など花が咲き蝶が集まる低木を中心に植栽をしました。



3 キツネノカミソリ

9月初旬に花が咲く時、葉はない。薬草園時代の残存種と考えられる。(花の周囲に見えるのはヒトツバハギの葉)



4 ノカンゾウ

梅雨のころにオレンジ色の大きな美しい花を咲かせる。野生であれば大阪府の絶滅危惧種であるが、薬草園時代の残存種と考えられる。



6 シロバナタンポポ

3月下旬から4月初旬にカンサイタンポポより少し早く咲き始める。このエリアには多くの株があるが、豊中市では希少種。



7 カンサイタンポポ

4月初旬からシロバナタンポポより少し遅れて咲き始める。市街地では外来種のタンポポが多いが、校内ではこちらが多く見られる。



8 ツルボ

棚田の斜面や河川の土手などで見られる多年草。秋にピンク色の花を咲かせる。球根は食糧難の時代には食用にされた。



9 ノビル

根に小さな玉ネギのような球根があり、古くから食用になる野草として知られている。



10 スギナ

胞子体がツクシ(土筆)で、古くから食用にされてきた。



11 マルバハッカ(アップルミント)

薬草園時代の残存種と考えられ、このエリアに広く生育する。



12 ニオイスマレ

早春に青紫色の花を咲かせる外来種のスマレ。

## ビオトープ池

1999年頃から当時の生物同好会(後の生物工コ部)が水生植物などを植えビオトープ化しました。現在は、その時代からのヒメガマ①や園芸種のスイレン②、メダカやスズエビ、ヌマエビなどに加えて、猪名川流域で消えつつある在来種の水生生物を移植して保護育成をめざしています。

### ビオトープ池で見られる水生植物とトンボ類

毎年確認されているオオシオカラトンボ③・シオカラトンボ④・クロスジギンヤンマ⑤に加えて、ショウジョウトンボ・コシアキトンボ・チョウトンボ⑥・アオモンイトトンボなどが時々見られます。



1 ヒメガマ

ガマよりも葉が細く、穂も小ぶりである。雌花の上部に雄花があり、花粉は古代より止血薬として利用された。



2 スイレン

温帯性のスイレンで日本各地の庭園などに植えられる。白花もある。



3 オオシオカラトンボ(オス)

夏季にはこの池でよく見られる。メスの体色はオスと違って黄色と黒色で、裏山で見られる。



4 シオカラトンボ(オス)

オオシオカラトンボよりも体色が薄い。メスの体色は黄色みを帯びる。



5 クロスジギンヤンマ(メス)

毎年、4月下旬から5月上旬に羽化が見られる大型のトンボ。オスは緑色と水色と黒の美しい体色。



6 チョウトンボ(オス)

まれに周囲のため池から飛来する。

### ビオトープ池とその周囲で保護・育成をしている猪名川流域の水生生物

水生植物: イヌタヌキモ⑦、フトヒルムシロ⑧、ミズユキノシタ

ミクリ(大阪府絶滅危惧Ⅱ類)、ショウブ

魚 貝 類: オオタニシ(大阪府準絶滅危惧種)⑨、ドブガイ、ドジョウ(大阪府絶滅危惧Ⅱ類)、モツゴなど



7 イヌタヌキモ

食虫植物の水草で、捕虫囊にプランクトンなどを吸い込み栄養にする。貧栄養のため池に生育するが近年減少している。(池田市内のため池より移植)



8 フトヒルムシロ

水中と水上に形態の違う葉を伸ばす。姿を消しつつある水生植物(能勢町のため池より移植)



9 オオタニシ

貧栄養のため池に生息する在来種で大型のタニシ。大阪府準絶滅危惧種(池田市内のため池より移植)

## 中庭・校舎・グラウンド周辺

### 中庭

本校創立後徐々に整備され、スギ①やソテツ②、ココスヤシ③、ハクモクレン④、ヒラドツツジ⑤、サツキ⑥、サザンカ⑦、マメツグ⑧、アペリア⑨などが植栽されています。草刈りなどの維持管理が長年されてきた場所ですが、ここにも今では見かけることが少なくなったネジバナ⑩やニガナ⑪、ドクダミ⑫などの植物が生育しています。



#### 3 ココスヤシ

ヤタイヤシやその交雑種がこの名称で呼ばれている。9月頃に甘く熟す。



#### 4 ハクモクレン

3月に白い大きな花を咲かせる。近年コブシハバチの幼虫の食害を受けている。



#### 6 サツキ

中庭や校舎南側、裏山にも植栽されている日本に自生するツツジの仲間。5月下旬から6月初旬に開花。



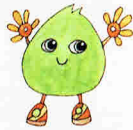
#### 10 ネジバナ

日当たりの良い草地に生え、小さなピンク色の花をらせん状につけることからネジバナの名前がつけられている。



#### 11 ニガナ

名前の由来は苦みが強いことから。5月～6月に黄色い花を咲かせる。



### テニスコート横

アスファルト舗装の割れ目や砂の溜まった場所にも、種が運ばれてキリヤアカメガシワ⑬、アキニレ、エノキなどの様々な植物が生えています。中でもスミレ⑬はこのような場所を好んで生育しています。



#### 13 スミレ

古くから知られた人里の野草、最近では日本中で減少。種子はアリが運んで拡散させる。ツマグロヒヨウモンという蝶の幼虫(写真)の食草。



ツマグロヒヨウモンの幼虫



ツマグロヒヨウモンの成虫(メス)

### 校舎南側(塀の外側)

ヒマラヤスギが植栽され、その間にヒラドツツジ⑤やサツキ⑥、ユキヤナギ⑭、レンギョウ⑮、アペリアなどが植えられています。ここにも現在ではエノキ⑯やアメリカノウゼンカズラ⑰、オオキバナカタバミ⑱ビロードモウズイカ⑲など様々な樹木や草花が自然に生育しています。平成22年に壁面緑化のために「黒田緑化財団」の寄贈によって植えられた宿根性のノアサガオ⑳と花が少しオレンジ色のノウゼンカズラ㉑が夏季には花を咲かせます。



ホシミスジ

#### 14 ユキヤナギ

4月に白い花を一面に咲かせる。ホシミスジという蝶の幼虫はこの葉が食草。



#### 17 アメリカノウゼンカズラ

植栽されていたものが各地で野生化している。夏に赤い花をつけ、多くの昆虫が吸蜜に集まる。



#### 18 オオキバナカタバミ

もともと鑑賞用に栽培されたものが野生化している。3月～4月に花を咲かせる。



#### 19 ビロードモウズイカ

ヨーロッパ原産で鑑賞用に栽培されていたものが野生化した外来種。全体に白い綿毛がある。2年草で、花茎は2mに達するものもあり、黄色の花をつける。2年草。



#### 20 ノアサガオ(琉球アサガオ)

宿根性のアサガオで種子はほとんどできない。花は朝だけで萎れず夕方まで見られる。



#### 21 ノウゼンカズラ

盛夏に橙色または朱色の花を咲かせ、古くから観賞用に植えられている性の落葉樹。

### グラウンド周辺

プール西側に大きなクスノキがあります。この木は創設時からあり、プールに大量の落ち葉を落とし困った存在でもありますが、定期的に剪定をしながら維持がされています。傍にはグッケイジユとオリーブも植栽されています。また、グラウンドのフェンスには、ヤブガラシ、センニンソウ、キカラスウリ、アメリカノウゼンカズラ⑰、スイカズラなどのツル植物が巻きついていきます。

